

新型コロナウイルス・インフルエンザウイルス感染予防と歯科保健

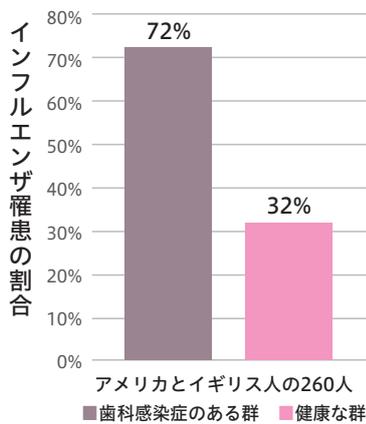


長崎県歯科医師会 常務理事
俣野 正仁氏

みなさんはどんな時に「歯科」を受診していますか？痛いとき、歯茎が腫れたとき、歯がグラグラするとき、詰め物や冠が外れたとき、入れ歯が割れたときなど「不都合が生じたとき」が多いと思います。中には「定期健診・クリーニング」に行っていますと言われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。コロナ緊急対策宣言が発令されたころ「不要不急の外出を避けましょう」「歯科に関しても定期健診などは延期しましょう」などと公的機関から発令が出されました。歯科医師からは定期健診やクリーニングは不要不急には該当しませんと発信しています。

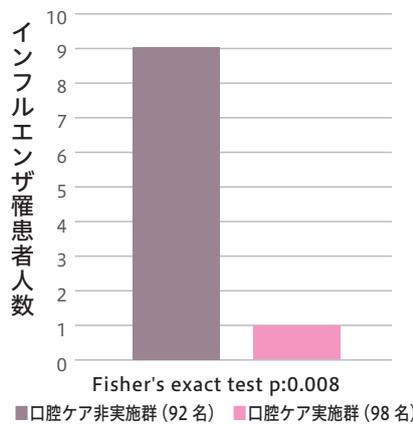
スペイン風邪と歯周病

▶ スペインインフルエンザ感染者



スペインインフルエンザ時には、歯科感染症のある患者は、罹患率が高く重篤になった。

▶ 要介護高齢者に対する口腔ケア



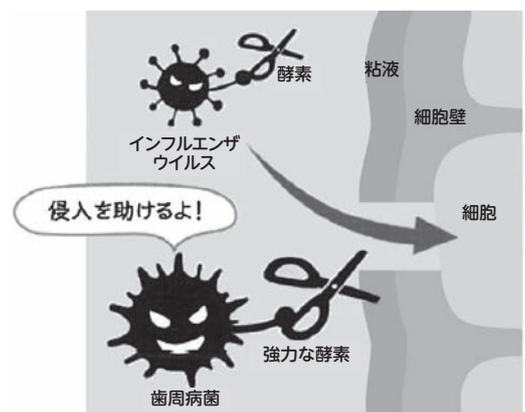
要介護高齢者に対する口腔ケア介入群は、インフルエンザの発症が有意に少なかった。

100年前に世界中で猛威を振るい、日本でも流行したスペイン風邪（H1N1型インフルエンザ）ですが、罹患したアメリカ人とイギリス人250人についてアメリカ歯科医師会研究所が検査した結果、歯科感染症のあった群はインフルエンザ重篤者が72%に達し逆に歯科感染症のない群は32%と低かったそうです。現在、インフルエンザに関しても高齢者施設で調査した結果、口腔ケアをしっかりと行った場合、罹患率がとても低くなっています。

日本学校歯科医会誌 No.128 「学校歯科医の役割としてのウイルス感染予防」より

お口のケアでウイルスの侵入をブロック

感染者の唾や飛沫を吸い込んだりウイルスに触れた手で目、鼻、口を触ることで体内に入ります。その中で口に入ったウイルスは舌の上に付着します。そして細菌が出すタンパク質分解酵素がウイルスの細胞侵入を促進します。特に、歯周病菌は強力なタンパク質分解酵素を使って、細胞壁を次々に破壊し、ウイルスの侵入を助けます。ウイルス感染防止のためにも歯みがきによるケアや舌表面の汚れ（舌苔）を除去しましょう。



日本歯科医師会
歯の学校 # 71 「感染症予防」と「口腔ケア」より

口腔衛生管理と免疫機能

歯茎に溜まった細菌は腫れて出血した箇所から血管内に入り込み全身に流れていき様々な部位に炎症を引き起こします。代表的な疾患が糖尿病です。糖尿病により免疫機能が低下し歯周病も悪化する場合があります。また歯磨きが行き届かず口腔内の衛生状態が不良になるとむし歯が増えたり歯周病が悪化し食生活に影響が出ます。その結果免疫機能が低下します。また、「口の中の細菌」が唾液や食べ物と一緒に食道や胃を通過して腸内にたどり着き、腸内細菌のバランスを乱してしまうと免疫力が低下することが分かっています。



日本歯科医師会
歯の学校 # 71「感染症予防」と「口腔ケア」より

歯科医院での専門的ケア

家庭でのセルフケアと歯科医院によるプロフェッショナルケアによってむし歯と歯周病の予防がより確実になります。

プロフェッショナルケアのいろいろ



ラバーカップ (むし歯・歯周病予防)



エアフロー (むし歯・歯周病予防)



高濃度フッ化物 (むし歯予防)



日本歯科医師会
歯の学校 # 71「感染症予防」と「口腔ケア」より

ウイルスに勝つ

IgAという免疫がお口の中で細菌やウイルスと戦ってくれています。お口の中が汚れているとうまく働きません。

ウイルス感染を予防するために、セルフケア、プロフェッショナルケアで、お口の中を清潔に保ちましょう。

歯科医院における感染予防対策

歯科医院では従来から滅菌・消毒、手洗い、マスク、さらに飛沫感染予防のためゴーグルやフェイスガード等を使用して感染予防に努めております。これまで歯科医院を受診しての感染拡大は起こっておりません。安心して受診してください。